

「生きたい、生き続けたい」

小五

わたしには、ひいおじいちゃんがいました。でも、わたしが四年生のときに病気になるってしまいました。そのとき、ひいおじいちゃんは九十三才だったので、手術はきけんだと言われたそうです。でも、ひいおじいちゃんはこう言ったそうです。

「命がある限り、生きていたい。たとえば、きけんであろうがなかろうが、手術はする。生きたいから。」

わたしは、その言葉を聞いて、「生きたい、生きたい。」という言葉が心に深く残りました。ひいおじいちゃんの手術は

成功し、どんどん元気になっていきました。

それから一か月たったある日、ひいおじいちゃんが熱を出してしまい、入院することになりました。家族のみんなは口々に、

「死んじゃうんじゃないの。」

「手術で体がかれちゃったんじゃないの。」

などと言っていました。わたしは、「死なない。ひいおじいちゃんは生きるんだ。」とずっと思っていました。それでも、全然元気になってきません。元気になるより、どんどん病気が進行していつてしまったようでした。

そして、とうとう夜が明け、ひいおじいちゃんの余命と言われた日が来てしまいました。わたしは、それでも「ひい

おじいちゃんは生きる。」と信じて、学校へ行って、帰ってきました。すると、

「ひいじいちゃん、元気だよ。」

というお母さんからのうれしい電話がかかってきました。わたしは、「ひいおじいちゃんすごいな、がんばっているな。」と思いました。

だけど、次の日の朝、お母さんが泣いていました。

「どうしたの。」

と聞くと、

「今日、ひいじいちゃん死んじゃうかも
しれないんだって。」

と返ってきました。わたしは、心配な気持ちで学校に行きました。そして学校の帰り道、車のクラクションが聞こえました。後ろをふり返ると、お父さんと妹と弟が乗った車がありました。手招きをさ

れたので、車に乗りました。わたしは、そこでひいおじいちゃんがなくなったことを知らされました。

それから数日たって、テレビであるニュースを見ました。「A県B市C町で、Dさんが自殺しました。」これを見たとき、わたしはショックを受けました。「自殺」ということは、何らかの理由があつて、自分で「命を絶つ」ということで、自分で自分の未来を消してしまうことになります。わたしは、世の中の「生きたい、生き続けたい。」と願って努力している人々にとって、それはとても残念なことだと思いました。それと同時に、ひいおじいちゃんが言った、「命がある限り、生きていたい。」という言葉が頭にうかんできました。わたしは、命がある限り、男女関係なく生きるけんりがあつて、そ

のけんりを自分から放り出してはいけないと思いました。

この世の中には、「生きたいと思う人」と「生きたくないと思う人」がいます。わたしは、「生きたくないと思う人」を無くしたいです。なぜなら、生きたくても生きられない人がいるからです。わたしは、自殺しようとしている人に思い出してほしいです。自分には生きるけんりがある、と。たとえ、いやなことがあっても、だれかにいやなことを言われても、自分の命は自分自身のものである、と。そして、がんばって生き続けていれば、明るい未来がある、と。